

学校重点目標

I 児童生徒が主体的に学ぶことのできる授業の充実

- ① 学びの積み重ねと発展性、指導の継続性を重視した学習の評価と教育課程の整備
- ② 児童生徒の主体性を引き出し、学習効果を高めるICT 機器等の活用の促進
- ③ 児童生徒の実態に応じた授業づくり、自立活動の指導等を支える教職員の専門性の向上

II 児童生徒が地域の中で学び、豊かな生活を送るための体制づくり

- ① 地域と連携・協働した教育活動の充実と授業づくり（地域の課題、ニーズに応える活動、地域資源の有効活用等）
- ② 地域の方々と協働した活動による理解啓発
- ③ 児童生徒が、いろいろなパラスポーツの体験をする体制づくり
- ④ HP や広報、メディア等を利用した地域への理解啓発活動の充実

III 児童生徒が安心安全に学ぶことができる教育環境の整備

- ① 状況に応じた感染症対策及び、保健体制と生活指導体制の強化
- ② 自然災害、原子力災害等を想定した危機対応能力の強化

評価（2月末）

- A（達成） B（おおむね達成）
- C（やや不十分） D（不十分）

	各学部・分掌目標	重点目標 [学校重点目標との関連]	評価指標		自己評価	重点目標達成のための 具体的な取り組み	外部評価
			評価者	評価項目			
小学部	◎自分から挑戦しようとする児童の育成 ○身の回りのものや身近な人などに興味・関心をもつ力を育て、広げる。 ○自分の気持ちや考えを自分なりの方法で伝える力を育てる。 ○身近な人と共に活動できる力を育てる。	【I-③、II-①】 ・各学級で学期に1回以上、児童の実態に応じた体験的な学習活動を行う。	学校運営協議会（学校評価委員会）	・変化していく児童の実態を学級で共通理解するため、月1回以上話し合いの場をもつことができたか。 ・地域の人材や資源を活用した体験的な学習を学期に1回以上実施できたか。 ・HPや学級通信等で定期的な情報発信ができたか。	B	・各学級で各児童の実態を把握し、必要な体験活動についてまとめる。 ・体験的な学習活動を行う上で、校内地域コーディネーターと相談しながら、活用できる地域の人材や資源と結びつけた学習活動を企画する。 ・児童の様子について学級で共通理解し、HPや学級通信等で情報発信をする。	B
中学部	◎自分のよさや可能性に気づき、たくましく生きようとする生徒の育成 ○基礎的な学力の定着を図り、日常生活に活かす力を育てる。 ○自分のやりたいことや目標に向かって挑戦できるたくましい心と身体を育てる。 ○自ら学びに向かい、さまざまな人と自分からかかわる力を育てる。	【I-③ II-①・②】 地域や社会での体験的な活動をする中で、生徒が視野や経験を広げるとともに自己理解を深め、主体的・意欲的に活動に取り組めるよう学習を行う。		・定期の学級ミーティングや毎月の学部チーム会、学部会を行い、教員間で生徒についての情報共有を図り、授業づくりや日々の指導に活用することができたか。 ・年間の行事を通して、全ての生徒が1回以上、係を担って行事に取り組むことができたか。 ・各学級の実態や状況に応じた地域との連携した取り組みや、校外の場所や公共施設での体験的な学習に各学級で1回以上取り組むことができたか。	B	・学部内で周知が必要な生徒の様子について、学級会、学級チーム会、学部会で確認、検討し、学部全体で生徒の課題や有効な支援についての共通理解を図る。 ・学部の集会や行事の係を各学級や生徒に分担し、集団の中で責任や意欲をもって活動に取り組める機会を設定をする。 ・校内の地域コーディネーターを活用し、地域や他校の人と連携した活動や、校外での体験的な学習活動に各学級1回以上取り組む。	B
高等部	◎積極的に社会に関わり豊かに生きようとする生徒の育成 ○自立に必要な学力や心身の健康に気をつけて生活する力を育てる。 ○社会性を身につけ、積極的に人とかかわる力を育てる。 ○身につけた学力を現在および卒業後の生活に活用する力を育てる。	【II-①②】 学校と地域でねらいを共通理解し、生徒の実態に合った地域連携の授業づくりを行う。		・生徒の実態に即した「地域貢献」について、共通理解することができたか。 ・連携授業打ち合わせシートを利用して、地域の方とねらいを共通理解することができたか。 ・経過発表、実践報告を行い、情報交換や検討ができたか。 ・HPや校報などで地域連携授業の様子を発信できたか。	B	・生徒の実態に即した「地域貢献」について、そのとらえ方やねらいを学級で話し合う。 ・連携授業打ち合わせシートを作成し、それを利用して地域の方とねらい等について事前の相談や振り返りを行う。 ・学部会で、地域貢献のとらえ方と授業の経過発表(7月)や実践報告(12月)を行う。 ・HPや校報などで、各学級1回は地域連携授業の様子を取り上げる。	B
総務部	◎校内各部署、関係機関、保護者、地域と連携を図り、円滑に学校の運営を行う。	【II-④ III-②】 ・安心安全な学校づくりのための取組を企画・調整・実施する。		・避難訓練(火災、地震)、原子力災害避難シミュレーション訓練を計画、実施し、事後の反省をまとめて教職員に周知できたか。 ・避難訓練(火災、地震)、原子力災害避難の取組、PTAと連携した防災の取組等の記事を3つ以上掲載する。	B	・昨年度の反省をもとに、避難訓練、原子力災害訓練を行い、教職員の反省をまとめ周知する。 ・「こんにちは清心養護学校です」のチラシに防災に関する取組を掲載し、地域、校内、保護者にも伝える。	B
教務部	◎児童生徒の能力や適性を引き出し、最大限に伸ばすことのできるような教育活動を推進する。	【I-①】 ・学びの積み重ねと発展性、指導の系統性が図られるように、情報提供をする。		・教育課程の基本的な事柄を周知できたか。 ・教育課程検討シートの改善や検討の仕方の提案が教育課程の編成に役立ったか。 ・研修推進部と連携して、実態把握に役立つ情報を提供することができたか。 →3つの評価指標は教員アンケートをとり、客観的に評価できるようにする。	B	・教育課程の基本的な事柄を周知できるように類型別の会で研修を行う。 ・教育課程検討シートの改善を行ったり、検討の仕方を提案したりする。 ・研修推進部と連携を図り、児童生徒の実態把握に役立つ情報を提供する。	B
生徒指導部	◎児童生徒一人一人の能力や適性が発揮され、お互いを認め合える心豊かな社会生活につながる取組を推進する。	【II-①】 地域と連携・協働した教育活動等を推進し、校内外への発信を充実させる。	・地域連携推進のための体制整備や取り組み方の周知ができたか。(活動計画フロー図や活動報告ファイルなどの作成、周知) ・教職員対象のワークショップ(年間6回以上)や研修会(夏期)を実施できたか。 ・地域連携に関する情報を校内外に発信できたか。(HP、地域連携掲示板「ねっこ掲示板」…随時)(地域連携通信…各学期1回)	B	・地域連携推進に向けた校内体制(役割)の整備 ・教職員に対して、地域連携に関するワークショップや研修会の実施 ・地域連携に関する(必要な)情報提供および情報の見える化	B	

進路支援部	◎児童生徒が自己の進路を主体的に選択できるよう進路支援を行う	【Ⅱ-①】地域の事業所や関係機関と連携しながら、児童生徒、保護者、教職員のニーズに沿った進路支援や情報提供を行う。	学校運営協議会（学校評価委員会）	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象の研修会や事業所見学が実施できたか。 ・教職員への情報提供として、情報提供フォルダの整理や利用に向けての周知ができたか。 ・進路だよりを年間6回発行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に教職員に対して、事業所や関係機関などと連携した研修会や事業所見学を実施する。 ・教職員への情報提供として、情報提供フォルダ内のデータの更新、整理をし、利用のための周知をする。 ・進路だよりを通じて保護者に情報提供を行う。 	B
研修推進部	◎全国肢体不自由教育研究協議会島根大会の運営が円滑に進められるように企画・調整を行う。	【Ⅰ-③、Ⅱ-④】校内外の関係部署と連携を図りながら大会運営を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担を明確にし、準備・運営を効率的に行うことができたか。大会案内や情報提供が研修のきっかけとなったか。 ・実行委員会を行い、進捗状況を確認したり、情報共有を図ったりしながら運営を行うことができたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内実行員会を定期的に行うことで、各業務の進捗状況や情報を共有しながら準備を進める。また、校内への大会案内、情報提供を適宜行うことで、周知を図る。 ・校外の関係者や関係部署との連絡・調整については、管理職と相談をしながら担当者を中心に準備を進める。 	A
研修推進部	◎研究・研修・情報発信を計画的に実施し、専門性の向上を図る。	【Ⅰ-③】専門性の向上を目指そうとする教員集団作りを推進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による指導助言を活かし、グループや各学級でテーマに基づく取り組みができたか。 ・自立活動推進の取り組みや各研修会、情報発信が、教員のニーズや専門性向上につながる内容であったか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態把握と各学級のテーマに重点を置き、グループ内のニーズを踏まえた取り組みを計画的に進める。 ・自立活動推進担当の取り組みや研修会を計画的に行い、情報発信をしながら専門性向上につなげる。 	A
保健部	◎一人一人の児童生徒の心と身体の健康を支え、安心安全に学べる学校づくりを推進する。	【Ⅲ-①】児童生徒の健康と安全を守る保健体制や環境の整備、充実を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・変化する感染症対策に応じて、各所と連携し、児童生徒1人1人の状況に応じた環境を整えることができたか。 ・ヒヤリハットの取組を推進し、ヒヤリとする事象を見逃さずに原因を複数で考え、対応策や反省点を活かした改善策を教職員間で共有することができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する感染症対策を児童生徒一人一人に当てはめて考え、各学部、学級と情報をやり取りしながら環境を整える。 ・ヒヤリハット板上がった報告から対応策や改善策を複数で考え、各学部や学級と必要な情報について共有する。 	B
教育相談部	◎地域における肢体不自由教育のセンター的役割として、ニーズに応じた教育相談や研修会、情報提供を行う。	【Ⅱ-①②】ニーズに応じた教育相談や研修会、学校公開を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・親子のニーズに応じた親子教室や学校見学、就学相談が実施できたか。 ・事前に行ったアンケートや聞き取りの内容に基づき、依頼者や参加者のニーズに応じた教育相談や研修会、学校公開を実施できたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・親子教室では、活動の前後に保護者と話をする時間を設ける。 ・事前に電話等で相談の内容について伺い、準備をして巡回教育相談に臨む。 ・事前にアンケートをとったり話をしたりして研修会を計画する。 ・昨年の事後アンケート調査等を基に学校公開の内容を計画する。 ・事前の電話、相談場面等話しやすい雰囲気作りに努める。 	B
情報管理部	◎社会の中で生きる力を育むICT教育を推進するために、情報機器の活用を含めた教職員のスキルアップ、社会や地域への情報発信を進める。	<ul style="list-style-type: none"> [Ⅰ-②] ICT教育の充実のために教職員のニーズに即した様々な情報を発信していくことで、教職員のICTスキルの底上げを図る。 [Ⅱ-④] 学部や分掌の協力を得ながら、ホームページの更新計画に沿って充実した情報発信を推進する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に向けて、職員会やメール発信および集合研修を含めて、情報発信を年20回以上発信できたか。 ・ホームページを更新計画に基づいて、年30回以上更新できたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員に向けて、職員会やメール発信および集合研修を含めて、情報発信を行う。 ・ホームページを更新計画に基づいて、積極的に更新を行う。 	B
事務部	◎施設、設備等の破損、不具合がない状態を維持するとともに、破損、不具合が生じた場合は早急に対処する。 ○整備、改修等が必要な予算を要求する。	【Ⅲ】児童生徒が、安全で安心して学ぶことができる施設、設備等の環境の整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備等の破損、不具合を認知した日から3日以内に対応方針を決めたか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・常に校内を見回り、施設、設備等の異常の有無をチェックする。 	A	